

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 米パウエル議長発言などをチェック

2023年2月6日

今週は先週の米連邦公開市場委員会(FOMC)や雇用統計、ECB理事会や英中銀金融政策会合といった注目材料は予定されていません。

そうした中注目を集めているのが、FOMCを受けての主要メンバーの発言です。7日にパウエル議長がワシントンDCのエコノミッククラブで同クラブ会長のルーベンスティン氏（カーライル・グループ共同創設者・共同会長）によるインタビューに応じます。これまで歴代の議長や政財界の重要人物がエコノミッククラブで発言してきたこともあり、同所での発言は注目度が高くなっています。

パウエル議長は利上げ幅を0.25%に縮小した1/31-2/1のFOMC後の会見で、ここ3カ月のインフレ指標は利上げペースの減速が適切であることを示していると、利上げ幅の縮小について説明。一方で、十分に抑制的なスタンスとするために、あと数回の利上げを行うことを示唆しています。また市場で期待が広がる年内の利下げについては否定的な発言を行いました。

ただ、デysinフレのプロセスが始まっていることに言及したことを市場は重要視。発言後はドル売りが広がりました。短期金利市場動向をみると、次回3月はともかく、パウエル議長があと数回とした利上げ見通しに沿い、12月のFOMCで示されたターミナルレート5.00-5.25%に到達する5月のFOMCについては、金利据え置き見通しが広がっています。また議長が否定した年内利下げについても、議長発言後に期待が逆に強まっており、11月のFOMCでの利下げ開始が大勢の見通しに。さらに12月のFOMCでの2回目の利下げが大勢になっています。

このように市場の見通しとパウエル議長の姿勢にずれがあることは議長も認識しており、今回の発言機会でのどのような姿勢が示されるのかが注目されます。

そのほか、バーFRB副議長、クックFRB理事、ウォラーFRB理事などの常任理事や、FOMC副委員長を兼ねるウィリアムズNY連銀総裁、ボスティック・アトランタ連銀総裁、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、ハーカー・フィラデルフィア連銀総裁らも講演やインタビューなどの予定が入っています。

このうち最も注目を集めそうなのが、タカ派の代表格とされるウォラーFRB理事。先月は同理事が0.25%の利上げ見通しを示したことで、しぶとく残っていた0.5%利上げ継続見通しがほぼなくなった経緯があります。今回、物価鈍化を受けて今後の利上げに慎重な姿勢を示すようだと、5月の利上げ期待がもう一段後退し、ドル売りが一気に強まる可能性があります。

米国以外では7日の豪準備銀行(中央銀行)金融政策理事会が注目されます。0.25%の利上げ見通しが大勢となっています。利上げを実施した場合、昨年5月以来9会合連続となります。

豪中銀は年8回程度が一般的な多くの中銀と違い、年11回(基本毎月で1月だけ夏休み)会合を行うこともあり、昨年10月時点と比較的早く利上げ幅を0.25%に縮小しました(回数が多い分、大幅利上げを続けると上がりすぎます)。0.25%利上げが3回続いたこと

もあり、市場では利上げ打ち止めに期待する動きが一部で見られます。

ただ、今回は1月が上述通り金融政策会合の無い月であり、2か月ぶりの会合であるということや、1月25日に発表された第4四半期消費者物価指数(CPI)が前年比7.8%と第3四半期の7.3%を超え、33年ぶりの高い伸びを記録したことなどから、利上げ継続見通しが大勢となりました。12月単月のCPIは前年比+8.4%と10月の+6.9%、11月の+7.3%からさらなる上昇となっています。旅行や電力価格の上昇が伸びにつながっており、おそらくは第4四半期がピークになるとの期待があります。ただ、12月にかけて物価上昇が強まったことで、ピークをきちんと確認したいという意識も広がっています。

今回の注目は利上げ自体よりも声明で3月の会合での追加利上げを示唆するか、さらにはそれ以降について、どのような姿勢を示すかです。今のところ3月までの追加利上げ見通しが大勢となっており、それ以降は利上げ打ち止めに期待されています。こうした見通しに変化が生じると豪ドル相場にも影響が出ます。

山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。